

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	ご入居者様に対してお客様として関わり、高齢者の方の価値低下防止や生活の質の向上を図っているが、実現までに至っていない。	ご入居者様に対しての言葉遣いや対応などの接遇面の見直しを行い、お客様としての関わり方の見直しをしていく。価値低下、生活の質の向上を図っていく。	・カンファレンス、社内研修等で接遇の重要性について周知を継続していき、スタッフ一人一人の意識の改善を図る。意識の改善後、具体的な対応方法をカンファレンスなどでスタッフ全員に周知を行っていく。	3ヶ月
2	19	定期的な報告や来訪時に歓迎の意思を感じていただけるような対応など継続しているが、ご家族様と施設の距離感が残っている。密に連絡を行えるようにしているが、現状のままでは将来的に家族様とのつながりが薄くなる可能性がある。	ご家族様とのかかわりを継続してもらえるように働きかけを行い、ご入居者様が孤立することなく生活をしていける環境を整えていく。	・現在行っている定期報告、歓迎の意思の表出などを継続していき、細かな状態の変化などに対しても密に連絡を行っていく。また、援助の方針などに対しても家族様との協議を継続し、ご入居者様の生活を支えていく一員であることを理解して頂けるように働きかけを継続していく。	6ヶ月
3	7	虐待に対しての社内研修やカンファレンスなどでのスタッフへの周知を行っているが、虐待に対しての意識が時間経過とともに薄れて行っている。	虐待についての意識を常に持ってもらえるようにしていき、虐待についての知識を各スタッフがしっかりと認識できるように取り組みをしていく。	・虐待についての理解を社内研修、カンファレンスで継続的に喚起していき意識が薄れることの無いようにしていく。 ・定期的にカンファレンスや社内研修にて虐待に対しての正しい知識習得してもらえるように働きかけを継続していく。	12ヶ月
4	13	職員に対しての教育を継続しているが知識・技術の習得が不十分。現在の研修体制の継続と講師側の教える方法を検討する必要がある。	現在の研修体制の継続し、カンファレンスなどを通して知識・技術の習得を目指していく。 講師としてスタッフに教育を継続し教育の方法などを検討しより、知識等を深めてもらえる内容の濃い研修を行う。	・個々の能力に合わせた内容の管理者、スタッフへの研修を継続していき、介護にかかわる知識・技術の習得を目指していく。 ・スタッフに対しての管理者の関わりを継続し、個別に様々なことを伝えていける体制を整えていく。	12ヶ月
5	2	ボランティアの受け入れを継続しているが、施設でのボランティア募集にたいしての認知度が低い。 地域への認知度の向上が必要。	自治体や周辺住民の方にそんぼの家神戸伊川谷を認識してもらい、施設としてボランティアの受け入れをしていることを知ってもらう。	・自治体や周辺住民にそんぼの家神戸伊川谷の施設を知って頂くために、地域での行事への参加や様々な媒体を利用した認知度の向上を目指していく。 ・ボランティアの受け入れについて、ボランティア協会などを通じボランティア団体の募集を継続していく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。